



バッハの森通信

第152号
2021年
7月20日発行

一般財団法人バッハの森

〒300-2635 茨城県つくば市東光台2-7-9 <http://www.bach.or.jp>

☎ 029-847-8696 / Fax 029-847-8699 e-mail: info@bach.or.jp

郵便振替 00380-4-16119 一般財団法人バッハの森

狭い門から細い道へ バッハの森の感動と喜びと光

最近、日本でバッハが有名人になりました。言うまでもなく、ヨーハン・ゼバスティアンではなく、IOC 会長のバッハさんです。東京オリンピックの成功を熱心に推進している方で、ヨーハン・ゼバスティアンとどのような縁続きの方なのか知りませんが、多分、ご先祖様はやれやれと思っているのではないかと勝手に推測しています。

私は、マスコミ報道以外、東京オリンピックについて何も知りませんから、特別なコメントはできませんが、一市民として、東京オリンピックの実現にやっきになる前に、なぜパンデミックになっている新型コロナ・ウィルスの克服に世界中が全力を傾けないのか、という素朴な疑問を持っています。

* * *

さすがに新型コロナ・ウィルスの蔓延克服のための緊急事態宣言下の東京でオリンピックを開催することについては、日本は勿論、世界中から疑問の声が聞こえてきます。それでもオリンピックが強行される理由について、いろいろと解説、乃至は、言い訳されていますが、要するにオリンピックは、パンデミックの克服を二の次にするほど人気があるからではないのでしょうか。当然、選挙で選ばれた政治家の皆さんは人気に敏感です。彼らは、人気があるところに人が集まり、人が集まるところに、お金も集まるという仕組みで動く世界の人たちですから、今さら東京オリンピックを止めることは考えられないでしょう。

誤解のないよう断ると、優れた人や優れたことに人々の評価が集まる、要するに人気が高いことを悪

いと言っているわけではありません。人気があるとは、言い換えれば、評判がいいということで、なぜ世間で評判がいいか学ぶことは大切です。知られているとおり、オリンピックは、その起源であるギリシャ以来、ルールのあるスポーツに争いを置き換えて平和を実現する、という智慧が生み出したお祭りです。集まるとすぐ争い出す人間の本性をリアルにコントロールする方法を見つけ出した賢い解決策ですから、勿論、高い評価に値します。問題は、パンデミックに襲われている世界で、多くの人間の命が危機に曝されているときに、人気先行でオリンピックを開くことです。

* * *

ここで思い出すのは、「狭き門」という原意の誤解が定着した日本語です。人気のある大学や会社に入社したり就職するために希望者が殺到するため、競争が激しくなり少数の人しか入れない門という意味で理解されています。しかし、これは元々イエス・キリストの言葉で、全く逆の意味なのです。「狭い門を通過して入れ。滅びへ向かう門は広く、大勢の人々がそこを通過して入る。しかし命へ向かう門は狭くて細い。それを見つけ出す人は少ない」。すなわち、人気のある広い門は滅びに至る門であり、命に向かう狭い門から入ろうとする人は少ない、という教えです。この教えによれば、大勢の人々に人気のあるオリンピックをするよりもっと大切な問題だ、と少数の人しか考えていないけれど、人の命を救うことに全力をかける方が大事なのです。

バッハの森で、6月末に開いた二つのコンサートの報告を3人の方が本誌4-5頁に寄稿して、それぞれ、バッハの森における学びが感動の源となり、静かな喜びに満たされ、昔からの光と邂逅した、と記してくださいました。このように、バッハの森で狭い門から細い道を通って命に向かった方々と、皆さんもご一緒に歩いてみませんか。(石田友雄)

涙が笑いに変わる日 終わりの大きな喜び

*このメディタツィオは、2021年6月27日に開かれた宗教音楽コンサート「涙が笑いに変わる日」で朗読されました。

水をあえぎ求める鹿のように

鹿が水をあえぎ求めるように／私の魂はあなた
に向かってあえぎ求めます、神よ（詩篇 42 篇）

歴史を通じて、深い苦しみや悲しみを経験した人々が残した言葉に、私たちは心を打たれます。

詩篇 42 篇の詩人は、すっかり水が涸れた谷川で、飲み水をあえぎ求める鹿を見かけたとき、まるで自分のようだと思い、魂に呼びかけました。彼の魂が渴き求めているのは、かなたの天にいます神ではなく、具体的に、エルサレム神殿で出会える神でした。

彼の言葉から推測すると、かつて彼はエルサレム神殿に仕えていましたが、何らかの争いに巻き込まれて、理不尽にもエルサレムから追放され、今ははるか遠く、ヨルダン川の水源近くのヘルモン山のふもとにいます。それでも、祭りの日、エルサレムに集まった群衆と一緒に、歓声をあげて神殿に向かった感動を忘れることができません。それなのに、今、悲しみのあまり神に訴えます。なぜあなたは私をお忘れになったのですか。助けてください。敵は私を嘲り、お前の神様はどこにいるのかい？と言います。でも、私は自分の魂に言い聞かせます。神の助けを待ち望め、と。助けに来てくださらない神に心が折れそうになりながら、いやいや神は私の神様なのだから、きっと助けてくださるに違いない、と魂に言い聞かせる詩人の思いは揺れ動いています。ここで彼の言葉は終わりますが、後にこの詩がエルサレム神殿の祭儀を通して歌い継がれてきたことは、最後に、彼が神殿に詣でて神の御顔を仰いだ日があったことを伝えています。

エルサレム神殿を恋い焦がれる思慕

何と慕わしいことでしょうか／あなたのお住まいは、万軍の主よ（詩篇 84 篇）

詩篇 84 篇は、主の住まいであるエルサレム神殿を恋い焦がれて巡礼する人の思慕の歌です。祭壇の側らに小鳥が巣を作り、ひなを育てている神殿は、天の王である主が、小さな弱い者たちを顧みて、守ってくださることを象徴しています。ですから、私のような者でも主の家である神殿の庭で祈ることが出来るのです。祈りの場である神殿の庭にいる一日は、普段の 1000 日にも勝る喜びのときです。そのとき、神殿にたどりつく前に通り抜けてきた嘆きの谷は、命の水が湧き出る泉に変わります。この言葉は、エルサレム神殿で主にまみえた喜びが、それまでの苦難の日々を祝福に変えたことを意味しています。主は私の太陽です。万軍の主よ、あなたを信頼する者たちは幸いです、と讚美の言葉で神殿を思慕する歌は終わります。

捕囚民解放の知らせに歓喜して

主がシオンの捕囚民を解放されたとき／私たちは夢を見る者のようであった（詩編 126 篇）

個人的な悲しみや、神殿思慕をテーマとする詩篇に対して、詩編 126 篇は、紀元前 538 年に、バビロンに捕囚されていた人々が解放された歴史的な事件を、エルサレムで知らされた人々が、歓喜に溢れて歌った歌です。その 50 年前に起きたユダ王国の滅亡以来、エルサレムは廢墟と化していました。

まるで夢を見ているようだ、笑いが止まらない、と歌いだし、亡国と捕囚という耐えがたい悲しみに流した涙が、解放という笑いに溢れた喜びに変わったことを、涙とともに種を蒔いたけれど、笑いとともに刈り入れることができたと言いました。

それもそのはずです。新バビロニア帝国がこれほど脆く滅亡し、バビロンに無血入城したペルシャ王キュロスが、オリエント各地から捕囚されて来ていた人々を全員解放するというようなことは、誰も夢にも思っていなかったからです。50 年もバビロンで捕囚生活を強いられてきたユダの人々も、最早エルサレムに帰り、神殿に詣でる日は来ないのではないか、と思っていたに違いありません。それでも、シオン、すなわち、エルサレム神殿を想わない日はありませんでした。「流れ行くバビロン／川の岸辺に／座り涙して／想い出すシオン」と歌った彼らの歌が、後に 137 篇として詩篇に収録されています。

ヤハウエに選ばれたダビデ王朝とエルサレム神殿

ここで、古代ユダの人々が、民族としても個人としても、なぜこれほどまでエルサレム神殿に特別な想いを抱いていたのか、その歴史を概観しておきましょう。旧約聖書の伝承によると、紀元前 13 世紀半ばにエジプトで奴隷にされていたヘブライ人がモーセに率いられてエジプトを脱出し、シナイ山で神ヤハウエと契約を結び、神に選ばれた民族、すなわち、選民イスラエルになりました。これが民族存立の基盤となったシナイ契約です。

その後、遊牧民であったイスラエル人の先祖はカナンに侵入定着し、先住民や周辺の諸民族、ときには仲間同志で争っていましたが、最後に、紀元前 1000 年頃、ユダ族出身のダビデが全 12 部族を統合してユダ・イスラエル王国を建国し、王都をエルサレムに定めました。すると、神ヤハウエは、ダビデの子孫が選民イスラエルを永遠に治めると約束したうえ、後継者ソロモンがエルサレムに神殿を建立すると告げました。ダビデ契約です。ソロモンは、至聖所にシナイ契約を収めた箱を安置し、エルサレム神殿は、ヤハウエがその名を置くために地上で選んだ唯一の場所であり、シナイ契約を継承する唯一の正統な聖所である、と宣言しました。こうして、ダビデ王朝とエルサレム神殿は、選民イスラエルを守るためにヤハウエが選んだ王朝と神殿であるという信仰が始まり、この信仰は以後 400 年間にユダの人々の心に深く刻み込まれました。その結果、紀元前 586 年にバビロニア人にエルサレム神殿が破壊され、ダビデ王朝が断絶しても、この信仰から、いつの日かダビデ家の子孫からメシアが現れ、イスラエルを再興するというメシアニズムが生じ、この信仰のゆえに解放された捕囚民はエルサレムに戻り、かつて神殿が建っていた聖なる場所に、エルサレム神殿を再建しました。これを第二神殿と呼びます。このような長い歴史を背負った第二神殿で、日々捧げられる祭儀を通して編纂された詩編の詩人たちが、神殿の庭に入って神に祈るときに、神と出会う至福の喜びを経験していたことを想像してください。

悩みを忘れ、喜び目指せ

大いに喜び、おお、私の魂よ／そしてすべての苦しみと悩みを忘れ去れ。

第二神殿は、それから 500 年以上にわたってユダヤ人共同体の中心として重要な役割を果たしましたが、紀元 70 年にローマ人によって破壊され、ユダヤの民衆と詩人たちが神と出会った場所は永久に失われました。代わって、その頃、ユダヤ人共同体から分かれて独自の信仰を広めていたキリスト教徒は、天から降る新しいエルサレムについて語りだしました（ヨハネの黙示録 21 章 1～4 節）。彼らの信仰によれば、そこは神が人と共に住み、涙を拭き去ってくださるため、死も悲しみも嘆きも痛みもない所であり、キリストの再臨と共に実現する新しい天地でした。そして新しいエルサレムには神と小羊、すなわち、イエス・キリストが人と一緒にいてくださるから、神殿はもはや存在しない、と説明しました（21 章 22～27 節）。この信仰を継承したキリスト教徒は、苦しみ悩みからの救いを、神とキリストに直接祈願します。水をあえぎ求める鹿のように神に向かって歌った詩篇 42 篇に、16 世紀にルイ・ブルジョワがつけた旋律に、17 世紀にクリストファ・デマンティウスが編集した歌集に収録されているコラール「大いに喜び、わが魂よ」は、キリストに向かって「私から遠く離れないでください」（6 節）、「あなたの御側(ミヅ)に逃げて行きたい」（7 節）、「私の魂をあなたのふところに休ませてください」（9 節）と願います。そして、自分の魂に向かって「喜び」「悩みを忘れ去れ」「喜び目指して進んで行くのだ」ときっぱり断言的な口調で語りかけます。理由は、「主キリストがお前を嘆きの谷から呼び出しておられるのだからだ」と言います。苦しみを克服するために「悩みを忘れ、喜びを目指せ」とは、なんと単純明快な勧めではありませんか。

シナイでイスラエルを選民とする契約を結び、ダビデとエルサレムを選んだ神と、エルサレム神殿で出会う喜びに感動した人々は、亡国と捕囚という耐えがたい苦難を乗り越えて第二神殿を建て、この感動を後世に伝えました。この感動が聖書となり、聖書は、エルサレム第二神殿が破壊された後、新しいエルサレムが世の終わりに天から降ると信じるキリスト教徒の信仰の源泉になりました。このように、苦しいときに、涙が笑いに変わる日が来ることを堅く信じて苦難を乗り越えてきた人々の生き様から、今、私たちは多くを学ぶことができるのではないのでしょうか。（石田友雄）

バッハのオルガン曲を貫く 素晴らしさと深さ

バッハの森で学んで得た感動

6月25日に、バッハの森記念奏堂で開催された「朝のオルガン音楽鑑賞会」では、石田友雄先生がプログラムの背景の解説をされた後、宮本とも子先生がJ. S. バッハによるコラール由来の三作品と二曲の自由作品を休憩を挟まずに演奏されました。「コラール作品と自由作品を組み合わせると、コラール作品の魅力になお一層の光が当てられる」というお考えを私たちに伝えようとする宮本先生のご配慮と思います。私はアーレント・オルガンで演奏されるバッハのオルガン曲の壮麗さと深さに引き込まれ、圧倒され、崇高さを湛えたバッハの音楽の空間に連れ込まれる思いでした。

今回演奏されたコラール作品は、ライプツィヒ自筆譜オルガン曲集に収められている、聖霊降臨祭第1祝日のためのカンタータ「私を愛す者、彼は私の言葉を守るであろう」の第3曲のコラール「来てください、聖霊よ、主なる神よ」「Komm, Heiliger Geist, Herre Gott」に由来するBWV 651とBWV 652、および「来てください、創造主の神、聖霊よ」「Komm, Gott Schöpfer, Heiliger Geist」に由来するBWV 667でした。その詩文がそのまま音列化されたとき感じられるコラール旋律が、BWV 651ではペダルで荘厳に現れ、BWV 652ではフーガ的にアレンジされて各声部に現れて全体を壮麗に織りなし、BWV 667ではソプラノとペダルに、それぞれ輝かしさと雄大さをもって現れます。バッハの表現と手法の多彩さからもたらされる音楽の深さに驚嘆する思いでした。

自由作品は、コラール作品BWV 651とBWV 652の間で演奏されました。BWV 529はトリオンナタで、音色の異なる3声部が織りなす躍動感と明朗さを、BWV 543の前奏曲とフーガには目眩い美しさを強く感じました。有名な曲なので、主題旋律や曲の運びが耳に残っていましたが、宮本先生の演奏はレコードやCDで聴くのと違い、アーレント・オルガンで表現される音色と響き、音楽全体が、聴く者の全身を覆い尽くして「バッハの空間」に引き込みました。このように素晴らしい自由作品を創造するバッハであるからこそ、先の感銘深いコラール作品を生み出すことができたのだと、私なりに得心しました。

今回の演奏会はまた、私がバッハの森から得ているものに思いを致す契機ともなりました。私が「バッハのオルガン音楽」を語句として知ったのは、小学生時代に読んだシュヴァイツァー伝からでした。しかし実際の演奏を聴く機会は皆無で、レコードや

FM放送ではない本物に初めて触れたのは、故・石田一子先生の演奏によってでした。更に加えてオルガン作品の基にあるコラールの持つ意味と背景を知り、それがカンタータとして表現された作品を聴き、それに身を委ねられるようになったのは、バッハの森で学び、導かれたからこそと思います。これによって、当時のライプツィヒ・トマス教会で会衆が得た感動の一部を私自身も追体験しているかのように感じました。同教会の礼拝行事(Motette in der Thomaskirche)に参列できた際に、またバッハの森でコラール、カンタータ、そしてオルガン曲を学び、知り、聴くたびにそのことを強く思います。

今回のオルガン演奏会は、その最たるものでした。BWV 651とBWV 652の源のコラールについては、バッハの森の「コラール研究会」「コラールを楽しもう」「カンタータ入門」で、背景となる使徒書と福音書の記述、詩文の意味、旋律の由来について学び、友雄先生の訳詞で斉唱し、このコラールを含むカンタータ(BWV 59)まで学習鑑賞してから今回の鑑賞会に臨めたからです。このため、知ることの少ない身であっても、バッハのオルガン音楽の素晴らしさに浸ることができたものと思います。これを幸いと思うとともに、コロナ禍後の世界で、この素晴らしい体験をより多くの方たちと共有できることを願っています。(平賀啓二郎)

* * *

不思議な感動に包まれる

静かな喜びに満たされて家路に

「涙が笑いに変わる日 ～終わりの大きな喜び～」という言葉に惹かれて、バッハの森の宗教音楽コンサートに参加しました。クワイアと指揮者が、まるで一体であるかのような感覚に心が震えました。コロナが収まっていないので、クワイアの皆さんが全員マスクをしての合唱でしたが、その一人一人の声、歌詞と音を指揮者が全身で受け止めた歌が、指揮者の指先からほとばしり出て、天に向かってどこまでも高く捧げられているかのような印象を受けました。

このように眼と耳で聴いた音楽は心に深く染み込みました。ハンドベルの点鐘に始まり、オルガン、詩篇朗読、合唱と続くプログラムは、メディテーションの言葉でまとめられ語られると、再び音楽が大きく流れていきました。

終わりの点鐘の響きが消えて一瞬の静寂が奏楽堂を満たしたとき、私は不思議な感動に包まれていました。それは演奏者たちが紹介されたときに、皆さんと一緒に拍手をするのを忘れていたほどでした。(勿論、我に返って少し拍手しましたけれど)。

「涙が笑いに変わる日」というテーマで綴られた音楽の物語の中に身をおいていたこの時間が、夢のようでした。言葉にできない不思議な感動を心に、静かな喜びに満たされて、バッハの森記念奏楽堂を後にしました。(横田博子)

* * *

シオンを思い出すとき

バッハの森で邂逅した昔からの光

6月27日に、バッハの森記念奏楽堂で「涙が笑いに変わる日」と題した宗教音楽コンサートが開かれました。そのふた月ほど前から、バッハの森で聖書を学び始めた私も、ハンドベル・クワイアの一員として参加させていただきました。オルガンやクワイアの美しい響きを聴いていると、自分は助けられ、守られ、導かれると無意識裡に信じていた子供の頃がふと思い出されました。そして、そこからどんなに遠ざかってしまったかを思いました。

バッハの森クワイアの練習には、一度体験参加しましたが、歌うことに苦手意識があることに加え、ラテン語やドイツ語で歌う難しさもあって、「私には無理、レベルが高すぎる」と、それきり参加しませんでした。でも誘われて、ハンドベルの練習には参加してきました。ですから、演奏者側としては、コンサート当日、聴いている時間が長かったのですが、美しい音楽に心が洗われていると、子供の頃にいつも仲間と声を合わせて讃美歌を歌っていた日々が蘇りました。朝夕の礼拝のときのみならず、登下校中でも休みの時間でも、学校の休みの日に遊ぶときでも、いつもいつもパートに分かれて“ハモって”いました。

コンサートが終わり、一時間半ほど運転して家に帰り着く頃、「なにかそうじゃないんじゃないか」という思いが、私の内に湧いてきました。いつも無邪気に歌っていたあの幸福な日々は、遠ざかってしまったのではなく、戻ってこようとしているのではないか。それを、音痴だから、高い声が出ないから、楽譜を読むことや外国語の発音が難しいから・・・等々の言い訳で、自ら妨げているのではないか。本当は美しいものを生み出す人たちに加わって、一緒にやってみたいのではないか。仲間と声を合わせて歌いたいのではないか。そのように思うようになりました。次のシーズンには、クワイアの練習にも参加してみようかな、と思うようになりました。

本を読むのは嫌いじゃないし、と、おうち時間の長い日々が一年以上続くのを平気な顔で過ごそうとしていましたが、読みたいと思うのが聖書という、ひとりでは読めない本となると、30年ぶりに買った真新しい聖書を持って毎週バッハの森へ通うことになったのにも、何らかの「繋がり」が作用したように感じます。

子供の頃に毎日仲間と歌っていた環境があったことが、今の私に善きものをもたらすのは、さながら長い年月をかけて届く星の光のように感じられますが、聖書を読むということも、昔からの光に邂逅することに他ならないのではないかという気がしています。長い時間をかけて今、手元に届く光を、私はずっと求めてきたのではないか、丁度、涸れた谷で水を求める鹿のように。それが私を助け、守り、導く働きをしてくれるのではないか。そんな予感がしているのです。

ディスタンスを取るように求められ、分断が加速していくように見える昨今でも、私たちは必ず繋がりの中にあるし、また鎧をつけてカッコをつけながら、気付かぬうちに自分で自分を捕囚しているような状態に陥っても、解放する力にはいつか出会う、そんな信憑を持つに至った今シーズンでした。

(岩間千枝)



宗教音楽コンサートを演奏した皆さん

2020年度・統計

会員数 (2021.3.31)	入退会者数			増減
		入会	退会	
維持会員 86人	維持会員 10	6	+4	
賛助会員 32人	賛助会員 0	5	-5	
学生会員 8人	学生会員 1	6	-5	
計 126人	計		-6	

集회回数

参加者延べ人数 (2020. 4. 1~2021. 3. 31)

学習コース	回数	延べ人数
クワイア (混声合唱)	24	294
器楽アンサンブル	2	6
声楽アンサンブル	4	22
ハンドベル・クワイア	6	34
ハンドベル・リンガーズ	10	80
オルガン音楽研究会	11	106
コーラル研究会	11	74
クラヴィコード・オルガン教室	7	21
チェンバロ教室	0	0
声楽教室	3	6
オルガン・クラブ	9	19
聖書	19	139
オルガン・クラヴィコード・チェンバロ練習	145	237
小計	251	1041

公開プログラム

コーラルとカンタータ	23	219
コンサート	2	66
クワイア・ワークショップ	2	28
楽器探検ツアー	1	41
歌って笑ってハンドベル	1	0
小計	29	354

運営活動

運営委員会	11	70
有志懇談会	1	15
理事会	2	10
評議員会	2	12
クリスマス飾り付けと片付け	4	12
楽譜・音楽資料整理	10	15
草取り、外周剪定	13	20
動画制作関連相談会	6	27
楽器探検関連準備・片付け	2	9
Zoom 関連相談会	1	2
動画試写会	1	7
DVD 鑑賞会	1	15
小計	54	214

その他

クリスマス会練習	1	4
会員のためのクリスマス会	1	24
小計	2	28

総計	336回	1637人
(昨年比)	75%	67%

2020年度・会計報告 (2020. 4. 1~2021. 3. 31)

【経常収支】

単位：千円

収入の部

基本財産受取利息	1
特定財産受取利息	0
年会費 (維持・賛助・学生会費)	750
事業収益	
1) 研究会 (学習コース)	1,080
2) 公開講座	101
3) コンサート	101
4) ワークショップ	71
5) 音楽教室	88
6) 楽器使用料	293
7) 賃料収益 (家賃収入)	1,152
一般寄付金	229
雑収益 (持続化給付金、資料代ほか)	2,771
計	6,636

支出の部

給与手当	682
支払報酬 (会計事務所)	223
旅費交通費	215
通信運搬費 (郵送料、電話、ネット関係)	233
什器備品費 (楽譜・書籍、エアコン)	310
消耗品費 (コピー用紙、文具他)	80
修繕費 (楽器メンテ、植栽、修繕)	1,109
印刷製本費 (パッハの森通信、封筒印刷)	52
光熱水料費	575
賃借費 (地代、機器リース料)	1,187
火災保険料	130
諸謝金	562
租税公課 (固定資産税、法人事業税)	381
負担金 (振込手数料)	4
雑費 (コピー使用料ほか)	123
地上権更新積立	100
オルガン修繕積立	100
特別会計補助 (建物維持)	403
計	6,469
当期経常増減額	167

【指定寄付収支】

単位：千円

土地地上権積立

	(収入)	(支出)	
前期繰越	987		
寄付	100		
一般会計積立	100	繰越	1,187
計	1,187		1,187

*今後の支出計画	2024年	地上権 (奏楽堂敷地)	800
	2024年	地上権 (貸家敷地)	640
	2026年	地上権 (聖書の国)	1,000

建物維持・修理

(収入)		(支出)	
前期繰越	79	聖書の国塗装	1,403
寄付	614	雨漏り、サッシ	201
一般会計補助	403		
借入金	1,000	次期繰越	492
計	2,096		2,096

*今後の支出計画

2022年	奏楽堂塗装	2,000
2023年	コミュニティセンター塗装	2,000

オルガン修復

(収入)		(支出)	
前期繰越	250		
寄付	180		
一般会計積立	100	次期繰越	530
計	530		530

*今後の支出計画 2021年 オルガン調整 500

借入金 (2021.3.31 現在)	単位：千円
長期借入金	34,000
短期借入金 (建物維持)	3,540
短期借入金 (新法人移行他)	7,700
計	45,240

2020年度の事業・会計報告

2020年度の事業と会計の報告として、より一層詳しい説明が必要なことを報告いたします。

プログラムの中止と変更

新型コロナ・ウィルス感染防止のため、2020年4月1日～5月31日に休館しました。そのため、初夏のシーズンのプログラムはほぼ中止になり、その結果、毎年6月末に開いていた「宗教音楽コンサート」と7月の「夏休みの音楽会」は中止しました。秋のシーズンは、通常通り活動することができましたが、「クリスマス祝会」と「クリスマスの音楽会」を中止し、その代わりにご馳走なしの「子どもと大人のクリスマス会」を開催しました。春のシーズンは予定通り始めましたが、新型コロナ・ウィルス蔓延拡大のため、急遽2021年1月17日～2月13日の4週間、休館することとなり、活動を中止しました。このようにしばしばプログラムを中止したため、学習コース、公開プログラムなどの開催は例年の60%～70%にとどまりました。

新規事業

世の中の皆様がコロナ禍で苦勞なさっているように、今年度は私達も通常の活動ができませんでしたが、そのために新しい事業を始めることもできました。先ず、4月、5月の2ヶ月の休館中に、「マニフィカト」と「降誕物語」の解説を、ほぼ毎週1回、メーリングリストの登録者に配信しました。これは、12月の「クリスマス・コンサート」の下準備になりました。

次に、「影絵と音楽と朗読でつづるクリスマス物語」を作成しました。この動画は、つくば市文化芸術奨励事業に応募したもので、つくば市がYouTubeで配信し、

つくば市より助成金(5万円)をいただきました。この影絵は「バツハの森通信」第149号に掲載されました。また同奨励事業のクラウドファンディングによるチケットを、バツハの森の年会費、学習コース、公開プログラムなどの支払いに利用した方々は、20%追加のサービスを受けることができました。更に、前年度と比較して収入が5割以下の月があったため、中小企業庁より持続化給付金(200万円)を受けることができました。

研究会や会議にオンラインで参加することは、コロナとは無関係にもっと前から出来たことですが、コロナ対策として世の中で一般化したことに影響を受け、会員の要望とメンバーの努力で、バツハの森でも研究会のオンライン参加を可能にしました。その結果、「歴史書・聖書入門」、「オルガン音楽研究会」それに「運営委員会」が、Zoomによる参加者をいれて運営されるようになりました。ただし、オルガンとCDの良い音をZoomで送るためには、一層の研究が必要であることが分かったので、「オルガン音楽研究会」のオンライン参加はしばらく見合わせることになりました。

借入金の債権放棄

1985年の創立以来、主に建物の塗装と修繕のための費用を通常会計で賄えない場合、石田友雄理事長が立て替え、それを短期、或いは長期の借入金として報告してきました。この借入金の総額は、2021年3月31日現在、4524万円になりました。これを放置することは、一般財団法人バツハの森の健全な運営に好ましくないという見地により、理事長から、すべての債権を放棄するという申し出があり、この申し出は、2021年6月26日に開かれた一般財団法人バツハの森の理事会と評議員会で承認されました。その結果、バツハの森の会計から借入金はなくなりましたが、上記の通り、土地地上権、建物維持・修理、オルガン修復のための支出計画は、寄付収入によらなければなりません。引き続き皆様のご協力をお願いいたします。(戸部慶子)

* * *

寄付者芳名 (2021.4.1～6.30)

一般寄付

下記の方々から計109,300円のご寄付をいただきました。

建物維持積立寄付

下記の方々から計169,000円のご寄付をいただきました。

オルガン修理積立寄付

下記の方々から計68,000円のご寄付をいただきました。

地上権積立寄付

下記の方々から計50,000円のご寄付をいただきました。

*R: オンライン参加

4. 17 **運営委員会** 参加者 8 名 (R 3)。
 4. 23 **中庭草取り** 1 名。
 5. 3 **外囲い剪定** 2 名。
 5. 7 **中庭芝苅り** 1 名。
CD 製作相談会 嶋ゆりか氏来訪、
 参加者 3 名。
 5. 15 **運営委員会** 参加者 8 名 (R 3)。
 5. 29, 30 **庭剪定** 1 名、2 名。
 6. 12 **運営委員会** 参加者 8 名 (R 2)。
 6. 13 **影絵録音** 参加者 5 名。
 6. 20 **庭剪定** 1 名。
 6. 25 **朝のオルガン音楽鑑賞会**
 参加者 22 名+講師 2 名: 計 24 名。
 6. 26 **理事会・評議員会** 参加者 7 名。
有志懇談会 参加者 13 名 (R 2)。
 6. 27 **宗教音楽コンサート**
 参加者 9 名+出演者 14 名: 計 23 名。
取材 (芸文) 新垣宏久氏。

J. S. バッハの音楽鑑賞シリーズ
 コラールを歌おう
 カンタータ入門 (JSB)

4. 17 コラール「輝くこの日を」。オルガン:
 笠間きよ子。参加者 9 名。
 4. 24 **第 476 回、クワズィモドジェニティのカンター**
ータ「イエス・キリストを記憶に留めよ」
 (BWV 67); オルガン: J. S. バッハ「素晴ら
 しい日が現れた」(BWV 629)、笠間きよ子。
 参加者 8 名。
 5. 1 コラール「天に昇りたる」。オルガン: 別所
 香苗。参加者 9 名。
 5. 8 **第 477 回、昇天祭のカンタータ「キリストの**
昇天のみを」(BWV 128); オルガン: J. G. ヴァ
 ルター「いと高くいます御神にのみ」別所香苗。
 参加者 9 名。
 5. 15 コラール「来たれ、聖霊の主」。オルガン:
 安西文子。参加者 7 名。
 5. 22 **第 478 回、聖霊降臨祭第 1 祝日のカンタータ**
「私を愛す者、彼は私の言葉を守るであろう」
 (BWV 59); オルガン: D. ブクステフーデ
 「来てください、聖霊よ、主なる神よ」、安西
 文子。参加者 8 名。
 5. 29 コラール「世の智慧すべての」。オルガン:
 横田博子。参加者 7 名。
 6. 5 **第 479 回、三位一体祭のカンタータ「反抗的**
で臆すものだ」(BWV 176); オルガン: J. S.

バッハ「私たちの主、キリストはヨルダン川
 へ来られた」(BWV 684)。安西文子。参加者
 6 名。

6. 12, 19 **第 480 回、コラール「永遠の時よ」**。三位
 一体後第 1 主日のカンタータ「おお永遠よ、
 あなた、雷の言葉よ」II (BWV 20)。オルガ
 ン: G. メルケル「おお永遠よ、あなた、雷の
 言葉よ」、J. L. クレプス「おお永遠よ、あなた、
 雷の言葉よ」。並木聡子。参加者 9 名、8 名。

学習コース

- バッハの森・クワイア (混声合唱)** 4. 17/13 名、4. 24
 /11 名、5. 1/14 名、5. 8/12 名、5. 15/14 名、
 5. 22/11 名、5. 29/12 名、6. 5/12 名、6. 12/
 14 名、6. 19/13 名、6. 26 (ゲネプロ) /13 名。
オルガン音楽研究会 4. 16 /11 名、5. 28 /10 名、
 6. 11 /9 名 (R 1)。
コラール研究会 4. 16/8 名、5. 28/7 名、6. 11 /7
 名。
オルガン・クラヴィコード レッスン&クリニック
 5. 28/2 名、6. 7/2 名 (R)。
オルガン・クラブ 4. 23/2 名、5. 21/1 名、6. 4/
 2 名、6. 18/2 名。
チェンバロ・レッスン 5. 28/2 名。
聖書入門 4. 17/8 名 (R 3)、4. 24/11 名 (R 5)、
 5. 1/11 名 (R 4)、5. 8/11 名 (R 6)、5. 15/
 9 名 (R 4)、5. 22/10 名 (R 4)、5. 29/9 名 (R 3)、
 6. 5/9 名 (R 5)、6. 12/10 名 (R 4)、6. 19/
 11 名 (R 5)。
器楽アンサンブル 4. 17/4 名、5. 8/4 名、5. 22/
 4 名、5. 29/4 名、6. 12/4 名。
声楽アンサンブル 6. 12/3 名。
ハンドベル・クワイア 5. 1/6 名、5. 15/6 名、
 5. 22/5 名、6. 5/6 名、6. 19/6 名。
ハンドベル・リンガーズ (子どもと大人のハンドベル・
クラブ) 4. 18/9 名、5. 16/7 名、6. 13/7 名。
オルガン、クラヴィコード、チェンバロ練習
 4. 1/2 名、4. 7/1 名、4. 8/3 名、4. 9/1 名、
 4. 10/1 名、4. 13/1 名、4. 14/2 名、4. 15/2 名、
 4. 16/1 名、4. 17/1 名、4. 20/2 名、4. 22/1 名、
 4. 23/2 名、4. 24/1 名、4. 28/1 名、4. 30/1 名、
 5. 1/1 名、5. 7/3 名、5. 8/1 名、5. 11/1 名、
 5. 13/2 名、5. 14/1 名、5. 15/1 名、5. 18/1 名、
 5. 19/1 名、5. 20/2 名、5. 21/1 名、5. 25/2 名、
 5. 26/1 名、5. 27/4 名、5. 28/3 名、5. 29/3 名、
 6. 1/2 名、6. 3/1 名、6. 4/3 名、6. 5/2 名、
 6. 7/2 名、6. 11/2 名、6. 12/1 名、6. 16/2 名、
 6. 17/2 名、6. 18/3 名、6. 19/3 名、6. 23/2 名、
 6. 25/1 名、6. 26/1 名、6. 27/1 名。